

憐れみによる奇跡

マタイによる福音書一五章29～39節

大勢の群衆が、足の不自由な人、目の見えない人、手の不自由な人、口の利けない人、その他多くの病人を連れて来て、イエスの足元に置いたので、イエスはこれらの人々を癒やされた。(30)

イエスは再びガリラヤ湖畔に戻って来られましたが、そこはマルコ七章によればデカポリス地方のことで、その住民の多くは異邦人でした。イエスの名声は異邦人たちにも広まっており、人々が病を癒してもらうために多く集まってきました。本当ならば前の箇所でカナンの女性に語られたように、彼らの申し出を断ることもできたはずですが。集まった人々は、ただ病気を治してもらいたいばかりで、イエスの説く福音にはあまり関心のない人たちだったことでしよう。福音宣教に直接つながらない働きであるならば、「時間と労力の無駄だ」と手を抜くことも出来たのです。しかし、主イエスは大きな憐れみの心、人々の痛みや悲しみを共に痛む心から、ことごとく癒やされました。主イエスはその憐れみの心を私たちにも向けてくださいます。資格のない者たちに、主の憐れみは溢れ出るのです。